

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第16週(4月14日～4月20日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	14週	15週	16週	16週	16週
インフルエンザ	1.25	1.00	0	1.04	1.20
新型コロナウイルス感染症	2.00	2.33	2.00	0.96	1.77
RSウイルス感染症	2.33	3.50	2.50	1.39	0.85
咽頭結膜熱	1.33	1.00	2.50	0.45	0.32
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.33	3.00	1.50	4.23	2.64
感染性胃腸炎	5.33	11.00	8.50	9.06	8.54
水痘	0	0	0	0.39	0.37
手足口病	0	0.50	0	0.00	0.07
伝染性紅斑	0	0	0.50	0.35	1.25
突発性発疹	0	1.00	0	0.13	0.30
ヘルパンギーナ	0.33	0.50	1.50	0.13	0.02
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.06
急性出血性結膜炎				0.50	0.06
流行性角結膜炎				1.75	0.95
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.01
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
マイコプラズマ肺炎	2.00	1.00	0	0.17	0.30
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.50	0.24

急性呼吸器感染症(ARI)		45.67	44.67	73.54	56.58
---------------	--	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 感染性胃腸炎の感染予防に努めましょう。

第16週の報告数は281人で、前週より21人少なく、定点当たり報告数は「9.06」でした。地区別にみると、佐世保地区「22.50」、西彼地区「12.00」は、警報レベルの報告数となっています。県北地区は「8.50」と前週の「11.00」より減少しています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

【トピックス】 百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。ワクチンの定期接種により発生数は激減していましたが、2025年は第16週までに85件の報告があり、全数把握疾患となった2018年以降において、最多の報告数となりました。年代別では、10代が約6割を占めていますが、20代以上でも報告があります。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

【トピックス】 急性呼吸器感染症(ARI)が5類感染症に位置づけられました。

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection:ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の改正により、令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が5類感染症に位置付けられました。ARIの流行の動向を把握すること、未知の呼吸器感染症の発生を探知することを目的に定点把握の対象となりました。県内では人口等を勘案して選定された51医療機関(ARI定点)から、1週間(月～日曜)にARIと診断された患者数が週に1回報告されます。

2025年第16週の定点当たり報告数は「73.54」でした。ARIの予防には、換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの基本的な感染症対策となります。流行状況に応じて、感染予防に努めましょう。